

## 2002年9月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

北半球500 hPa 高度では、極渦がシベリア側に偏り、その中心はタイミル半島付近に位置し、北極海側のシベリア周辺で負偏差が明瞭となった。この極渦の西側に位置するノルウェー海周辺で明瞭なブロッキング高気圧がみられた。また、カナダ東部やユーラシア大陸の北緯40～50度帯で正偏差、イベリア半島沖の大西洋から地中海周辺で東西に負偏差となったほか、太平洋北部の日付変更線付近で正偏差、カナダ西部で負偏差となった。

対流活動は、太平洋熱帯域ではニューギニア島の東海上から太平洋中部にかけて平年より活発だった。太平洋東部ではほぼ平年並だった。一方、メキシコ湾では平年より活発、インド洋赤道域からインドネシア付近では8月に続いて平年より不活発だった。また、アジアモンスーン域ではベンガル湾からフィリピンにかけて平年より活発、インドで平年より不活発だった。

200 hPa 速度ポテンシャルの分布図では、太平洋西部の大規模な発散域は平年よりも10°程度東に広がり、日付変更線付近にも発散の中心が見られた。

SOI (南方振動指数) は-0.5となり、7か月続けて負の値となった。

### 世界の天候

- ① シベリアの多雨
- ② 日本からモンゴルの少雨
- ③ 中国南部からインドシナ半島の低温
- ④ 華南からインドシナ半島の多雨

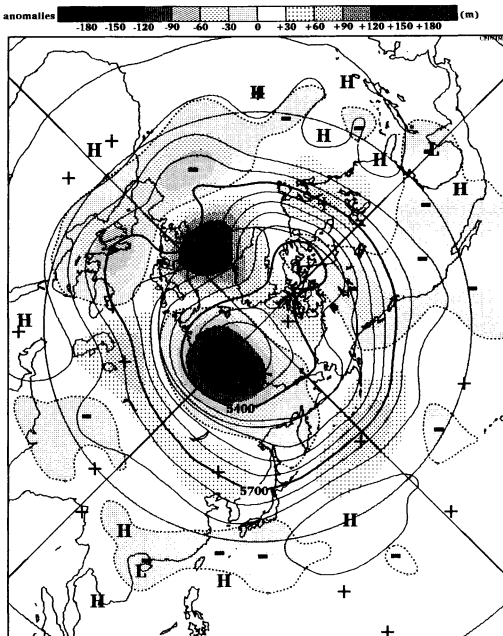
華南では台風第16号、第18号、第20号により合計50人以上の死者が報じられた。インドシナ半島では大雨による洪水が断続的に発生し、タイ、ベトナム、カンボジアでの死者の合計は9月だけで150人を超えたと伝えられた。

- ⑤ 中国西部からパキスタンの低温
- ⑥ インド南部の高温・少雨
- ⑦ ヨーロッパ北部の高温・少雨
- ⑧ トルコからヨーロッパ南部の多雨

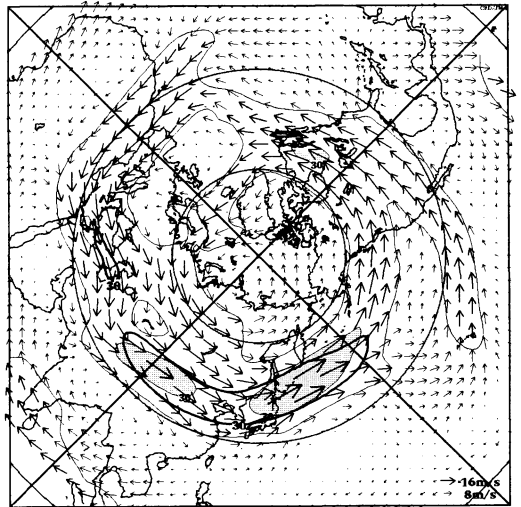
上旬にフランス南部で集中豪雨が 발생し、30人以上の死者・行方不明者が報じられた。下旬にはアルバニアで洪水の被害が伝えられた。

- ⑨ カスピ海周辺からアフリカ北部の高温
- ⑩ 北米北東部の多雨
- ⑪ 米国東部の高温

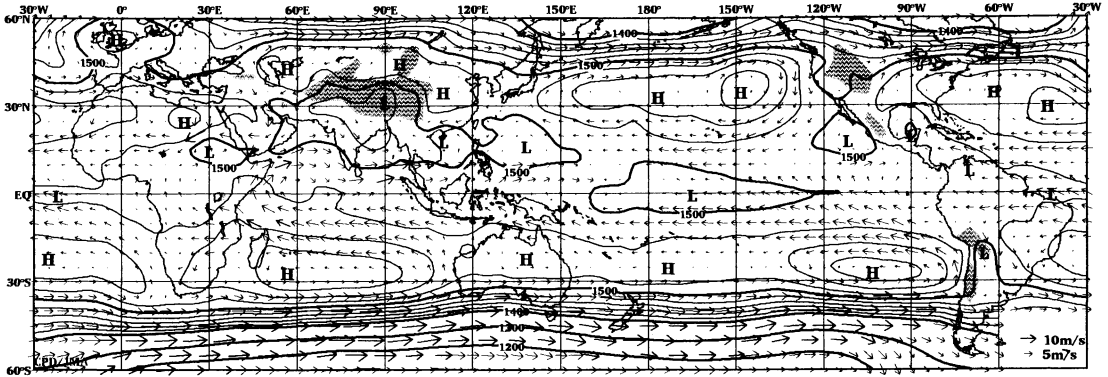
(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 村上喜章)



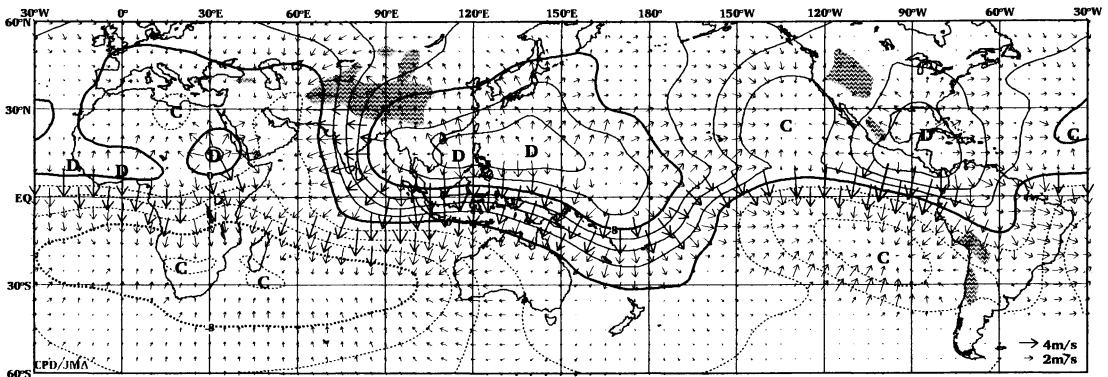
2002年9月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差  
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m. 平年値は1979～1993年のECMWF15年再解析データによる。



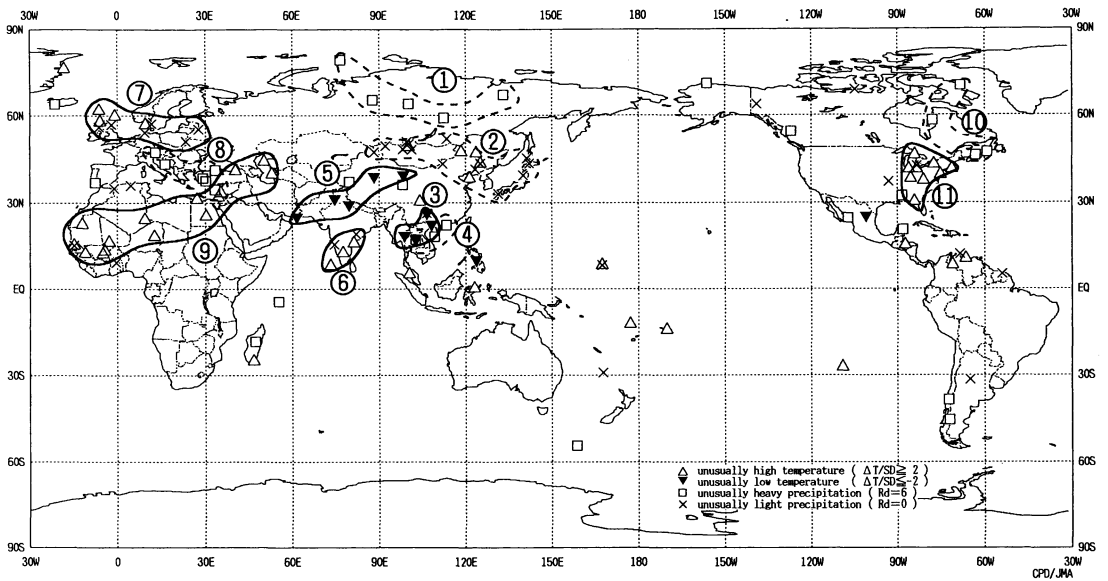
2002年9月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル  
等値線間隔は15 m/s. 陰影部は30 m/s以上. 太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す. 平年値は1979～1993年のECMWF15年再解析データによる。



2002年9月の月平均850 hPa高度及び風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



2002年9月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2002年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0．図中の番号は本文中の番号と対応している．